

最優秀賞

大雪の日のどきどき

岐阜県 飛騨市立古川小学校二年 村安条

なごやのかえり、電車の中で知らないおばあちゃん、すわるせきがなくてこまっているようすでした。すると、ママが、

「あのおばあちゃん、せきがないのでこまっているのかなあ。」

と、言いました。そして、

「もしも、おばあちゃんがこまっているのなら条がママのひぎにのって、条のこのせきをゆずってあげようか。」

と、いつもの笑顔で言いました。それを聞いて、わたしは、とってもいい考えだと思いました。わたしもママにだっこしてもらえてうれししい。話のあとすぐに、そのおばあちゃんのところへ行きました。

「おばあちゃん。あのせきすわっていいよ。」

と言いました。おばあちゃんはびっくりして、しばらくじっと考えていましたが、

「えーいいの。ありがとう。」

「ありがとうございます。本とうにいいんですか。」と、なみだ声で言いました。わたしは、

「スペシャルゲストだ。」

と言いながら、うれしくて、また、おばあちゃんの手を引っぱってかいさつを出しました。そして、パパがうんてんしてみちを聞きながら、雪がいつぱいもっている夜のさかみちを家までおくって行きました。おばあちゃんは、雪の中いつまでも手をふってくれました。わたしは、この日のできごとでママがおばあちゃんにせきをゆずったり、車にのせてあげてすごいなと思いました。

そのあと、おばあちゃんからの手紙に、「条、さらさん。先日はありがとう。二人のگریようしんのまわりの人への思いやりは、せかいいちあつたかくてなみだがごぼれました。今まででこんなにやさしい人に出会ったのははじめてです。すばらしい家ぞくにつつまれている二人はせかいいちしあわせものですよ」と書いてありました。

わたしはしつげがきびしいので、こわいだけの人だと思っていました。でもおばあちゃんの手紙で、ママはやさしい人だったんだと気づきました。

せかいいちやさしいママのことを見なおしました。



と、言いました。わたしは、おばあちゃんの手をひいてわたしのせきまでつれてきました。それから、高山につくまで、そのおばあちゃんとママと姉とわたしの四人で、いろんな話をしました。とてもおもしろくて、とつきゅうの二時間半があつというまにすぎました。

高山につくと、パパがむかえにきてくれることになっていました。おばあちゃんとは、そこでおわかれのよていでしたが、その日は大雪のせいで電車が高山止まりになっていました。ママは、電車からおりても、おばあちゃんをまとうと言つてうごきませんでした。アナウンスを聞いたおばあちゃんはまたこまっ

ていました。ママはおばあちゃんに、「おなじ町なのでわが家の車にのって、いっしょに行きませんか。」

と言いました。おばあちゃんは、顔をしわくちやにして、